平成 30 年 5 月 31 日

**次世代のエネルギー源を担う**

# 溶　融　塩　炉　（***MSR***）

## 第二回・推進総会 へのお誘い

## ～　　使用済み核燃料の処理ができる技術　　～

日本における核エネルギーを利用した原子力の新時代がはじまる。昨年、500 人を超える人々で発足したあの第一回総会から一年、2030 年のエネルギーミックスの実現を見据え、本年度策定予定の「第 5 次エネルギー基本計画」にいよいよ「溶融塩炉」たる文言が明記される見込みとなった。

今から 50 年前、水を使った原子炉を発明し、現在の加圧水型原子力発電所の原型を作った偉大な 2 人、ウィグナーとワインバーグが次世代のエネルギーを担う切り札として産み出した溶融塩炉。その特徴は、液体燃料を最大限に活用したことにある。歴史の渦の中、様々な変遷を経て、今、溶融塩炉が再び世界中から注目されている。

かのアメリカも技術的筆頭にある中国に負けじと、急ピッチでこの研究開発に突き進んでいる。技術立国の威信をかけ、わが国も絶対に遅れをとるわけにはいかない。

新たな世界への第一歩を自らの手で切り開くその鍵は、産業界のポテンシャルを再認識し、学術界と学生と協力し、三位一体となり、突き進むことである。エネルギー生産を担えるだけでなく、使用済み核燃料の処理にも応用できる可能性、その新しい扉がいまここに開かれる。

記

［日　時］　平成２９年６月 14 日（ 木曜日 ）

［時　間］　１３時３０分受付開始、講演会１４時～１７時

［場　所］　衆議院第一議員会館　Ｂ１Ｆ大会議室

［講　演］　①　（中国）徐洪傑【中国科学院・上海応用物理研究所・溶融塩炉開発総リーダー】

夏暁彬【中国科学院・上海応用物理研究所】

②　（アメリカ）デービット・ホルコム【オークリッジ研究所】　（予定）

③　（日本の状況）　山脇 道夫【東京大学名誉教授】

木下 幹康【NPO トリウム溶融塩フォーラム理事長】

［事務局］　〒 195-0071 東京都町田市金井町 2056-47
株式会社トリウム テック ソリューション　取締役会長 金子和夫
TEL 042-736-6960　　FAX 042-736-6963
［国会窓口］衆議院第二議員会館８０３号室　TEL 03-3508-7197　FAX 03-3508-3627
［参加申込］ＦＡＸ０３－３５０８－３６２７　大見 正（ 担当：齋藤　）
［資料代］　１０００円

**お申込は下記欄にご記入の上、この用紙で窓口宛にＦＡＸにてご送信ください。**

| | | |
|---|---|---|
| 代表者氏名 | | 出席者計　　名 |
| 住所 | | |
| 所属先 | 役職 | |
| 電話 | ＦＡＸ | 携帯 |

＜国会議員世話人＞　（順不同）
額賀福志郎、森 英介、山本 拓、原田義昭、三原朝彦、三ツ矢憲生、片山さつき　他

＜省　庁＞
経済産業省、文部科学省、内閣府　他

＜学会関係者＞
有馬 朗人(元東京大学総長・武蔵学園学園長)、山脇道夫（東京大学名誉教授、福井大参与）、石野 栞（東京大学名誉教授）、寺井隆幸（東京大学教授）、藤井靖彦（東京工業大学名誉教授）、古川和朗（高エネルギー加速器研究機構教授）、相良明男（核融合科学研究所名誉教授）、伊藤靖彦（京都大学名誉教授）、後藤琢也（同志社大学教授）、三田地紘史（豊橋技術科学大学名誉教授）、島津洋一郎（北海道大学名誉教授（元福井大教授））有田裕二（福井大学教授）、宇根崎博信（京都大学教授）
など

＜企業関係者＞
経団連、電気事業連合会、電力中央研究所、日立製作所、東芝、三菱重工、三井物産、ThorCon, US Inc.（USA）、 Elysium Industries（USA）　など